

啓伸塾 便り

9月(長月)
September

基礎学力を重視する学習塾
啓伸塾
ただ今、新入塾生募集中

わかってほしい「宿題」の本当の目的

東洋経済 ONLINE よろ

フコ棋士の藤井聡太七冠が、当時中学3年生の時、担任だった大羽教師がその素顔を明かす。

名古屋大学教育学部附属中・高等学校は、名古屋大学教育学部の附属学校であり、国立学校では唯一の併設中高一貫校です。中学校は一年生二クラスの八十名、高等学校は一年生三クラスの百二十名です。

生徒は県内以外に岐阜県、三重県から通っています。中学生にとって、クラスの生徒の出身地区は違います。様々な分野で特技を持つ生徒が互いを尊重し、認め合う雰囲気を感じます。

私はこの学校で教師として働いています。そして、当時、中学三年のクラスを受け持ちました。そのクラスに藤井聡太君がいました。

藤井君はこだわりが強く、自分が納得できないときには、納得するまでこだわり抜くタイプでした。私が担任になったばかりの四月のことです。藤井君から「なぜ宿題をやる必要があるのか」と聞かれました。藤井君と私は、宿題の意義について三〇分間話し合いました。

「なぜ、やらないといけないのでしょうか」「宿題も授業のうちに入るのでしょいか」と聞く藤井君に、私は「授業の中では理解が十分でないところもあるので、十分になるように宿題を出している」と説明しました。

藤井君は「理解を助ける上で必要」と、宿題の意義を理解してくれました。

藤井君は授業中、最初から最後まで集中していました。謙虚で礼儀正しく、普段の落ち着いた雰囲気は対局にも表れていると感じています。また、鉄道好きで、学校の休み時間は、友人と電車の話が中心でした。

藤井君の担任をした当初、将棋のことを話したほうがいいのかわかりませんでした。しかし、藤井君はそれを望んでいないことを感じました。「校内では対局を忘れ、学校生活を充実してほしい」と思い、クラス全体の一人として接しました。

このように藤井聡太君は、こだわりが強いタイプでしたが、いたって普通の中学生だったようです。納得いかないときは、納得いくまでこだわり抜く彼が、先生のこのような説明で、宿題の必要性を納得しました。

宿題の意義は、ここにありますように「授業で教わったことの理解を十分にさせる」ことです。

今回の前期末テストの勉強で、中学生のみなさんは、十分だったと思います。教わったことを、今度は一人でやってみる。これをやらないと、出来るようにはなりません。わかっていると思っていることも、それは「わかった気になっている」だけで、実はできない。このような経験をした子は多いと思います。

このように不十分な理解を十分に、一人で問題を解くことができるようにするのが宿題の役目です。

宿題は、やれと言われたから、やるのではなく、自分の理解を十分なものにして、テストで問題が解け、点数が取れる。テストで点数を取るために、やるのだと思ってください。

今回の前期末テストの結果を期待します。そして、十一月に行われる後期中間テストの結果を、さらに期待します。

小学生の保護者の方へ

小学生のみなさんには、授業の最初に、2問の復習テストを毎回行っています。普段、学校の算数の授業では、最初に計算問題を練習して、その後文章題を行います。例えば、かけ算の単元だと、文章題では問題に出てきた数字をかければ、ほとんどの問題は正解になってしまいます。ですから、かけ算の意味を理解しないまま済んでしまいます。これは、足し算でも引き算でも、割り算でも同様です。そのため、復習テストではあえて何の計算をして解くのかを考えてもらう問題を出しています。

中学の数学の問題は、小学校の基礎ができていないと、正解を導けません。中学でミスが多い子は、九九や分数・小数等の計算の基礎ができていません。図形や文章問題も、イメージしたり、図形を描いたりして問題の意味を理解しようとするのが文章題を解く上では必要不可欠です。文章を記憶に残そうとすることで理解しながら読む力がつきます。基本を学ぶ小学校は、とても重要な時期なのです。

公立高校の入試問題は、以前と比べだんだん変わってきています。数学では、今までより、長めの文章題になり難易度も高まり、平均点も年々下がってきています。また、社会のテストにおいては、資料の読み取りや構成比などの割合の計算の問題も年々増えてきました。小学生のうちから文章問題の練習をしていけば、中学になって、高校入試の際も、確実にできるようになります。自主勉も宿題もしない状態では、文章を読む力、へこたれずに頑張る取り組み力が育つはずありません。「めんどくさい」という言葉をよく聞きます。これは社会では通用しません。

わからない問題に出あったら、その問題の解き方がわからないのか、それとも問題の意味がわからないのかを見極める必要があります。文章を理解することは、勉強のためだけでなく、社会に出るためにも重要なことなのです。

生徒のみなさんの途中計算を見させてもらうと、何がわかっていないのかがよくわかります。400点以上取る子でも、うっかりミスがあります。それに気づいて理解してもらうことが、塾の役割だと思っています。

保護者の方は、お子様が、わからない問題を質問してきたら、問題の意味がわからないのか、その問題の解き方がわからないのかをしっかりと見極めてから、教えてあげるようにして下さい。

頭ごなしに叱るのではなく、寄り添ってあげて下さい。

9月の予定

中3生入試対策講座

9月9日(土)午後1時30分より毎週土曜日開始いたします。
夏期講習から始まった受験勉強が本格化します。ご予約ください。

第2回漢字検定

10月28日(土)第2回漢字検定を行います。締め切り日 9月22日(金)です。中3生は高校受験での願書に載せられる最後のチャンスになります。特に中3生は、受験勉強の一環として受験してみてください。

祝日の授業について

9月18日(月)敬老の日は小・中学生とも授業を行います。23日(土)秋分の日、中学3年生入試対策講座は行います。ご予約ください。